



今月の便り

夏を乗り切ったクリスマスローズ

風通しの良い場所や、グリーンカーテンの影など、夏の直射日光が当たらない場所で育てたクリスマスローズも来春の開花の為に、今月は作業を始める事ができます。夏に葉が枯れたらトラブルのサインです。原因に合わせてあせらず対処しましょう。葉がダメージを受けても株さえ生きていれば大丈夫。根腐れ、葉焼け、水切れ、灰色かび病、症状をよく見て原因を探ります。鉢植えなどでは、上記の症状を良く確認しましょう。見つけ次第、傷んだ箇所を多めに切り取り対処します。10月の作業での確認は、株分け。クリスマスローズの根はまっすぐ深く伸びるので、掘り上げるのは思いのほか大変です。新葉を残して、古葉は落とし地上部と地下部のバランスを取りましょう。掘り上げ後は、ハサミは使わず、マイナスドライバや手で割って、なるべく根を切り落さぬようにしましょう。分けた株が3~4芽以上になるようにします。芽数が少ないと充実して花が咲くまでに数年かかります。近年人気の進化系クリスマスローズは、個性溢れる最新カラーリーフやこだわりの花色別の個性が際立ちます。多年草で毎年早春に花を咲かせる多くが常緑性です。秋には置き肥もして春雪解け後にも追肥して個性的な花を愛でましょう。(たかはし)

植物の葉が傷んだら

9月の相談の中にシャクヤクの葉が茶色く変色してきたと相談がありました。シャクヤクの花の時期は6月ごろ。花が終わり今は葉と茎だけの状態です。冬は地上部が枯れるので、他の植物が秋枯れの頃に枯れるのは自然ですが、葉が大きめなので途中でうどんこ病にかかったり、灰色カビ病や葉枯れ病にもなります。もしこの時期に葉の痛みが目立ってきたら状態の悪い葉は切り取ってゴミに出してください。全ての葉がひどい場合は地際から切るしかありません。周りの草を抜いて浅く耕し、新しい土や腐葉土などを周りに被せてください。葉の状態が悪い時、夏の強い日差しで葉焼けからくるものなのか、風による傷みからくるものなのか、何か病気なのか、特に電話では区別が付きません。ただ大事なことは成長の途中で傷んで光合成をしなくなった葉は早めに切ることで、切った葉は地面に落としたままにせずゴミとして処理することです。これはシャクヤクだけではなく園芸では全ての植物に言えることです。病気のような葉や茎を切ったハサミも時々洗ったり消毒を忘れずに。このような小さなことが農薬を減らす助けになります。相談の多いものに「何の薬をかけたら良いか」というのがありますが、植物の自然治癒力や地力も大事にしてあげると少しラクになります。(きのした)



ガマ

夏から秋にかけて、川べりや田んぼの用水路などの浅い水辺に、棒に刺さったソーセージのようなものがニョキニョキ出ているのを見たことがありますか？蒲（がま）の穂です。草が生い茂る夏よりも、今頃からのほうがよく目立ちます。ガマは、ガマ科ガマ属の多年草で、日本全土の沼や池の水深の浅い場所や湿地などに自生します。草丈は 1.5 ～ 2 メートルになる大型の挺水植物（ていすいしょくぶつ＝水底に根を張り、茎の下部は水中にあるが、茎か葉の一部が水上に突き出ている植物）で、葉は幅 2 センチほどの線形、7 ～ 8 月ごろ水中からまっすぐ花茎を伸ばして、茎の先に円柱状の花穂をつけます。茎のてっぺんに鉛筆のキャップのように雄花穂がありその下に雌花穂がつづく変わった形をしています。秋になるにつれて花穂は太くなり小さな果実の集まりとなります。黄色い花粉を飛ばしていた雄花はしおれて縮み、雌花穂は黄緑色から茶褐色に変化します。ガマの穂の茶色の部分にはぎっしりと綿毛がつまっており、そのひとつひとつがガマの種で、ひとつの穂の中に、30 万個以上の種が入っているといわれています。衝撃が加わると、畳まれていた綿毛が一気にひろがって果実が飛び出します。子供のころ、よく熟したガマの穂を爆発させて綿毛を飛ばして遊んだものです。ガマは昔は人々の生活にさまざまな利用価値のある優れものでした。現在ではヨシなどとともに、池や川の水質の改善にも役立つ有用植物の一つです。（いとう）



お知らせ

【今シーズンの公園クローズのお知らせ】

いわみざわ公園は 11 月 3 日をもってクローズいたします。来シーズンの公園オープン は 2026 年 4 月 29 日を予定しております。

室内公園「色彩館」と PIZZERIA Lucci は冬期間も営業しております。

【室内公園「色彩館」からのお願い】

当館では植物の引き取りを一切行っておりません。予めご了承ください。育て方等でわからないことがありましたら、緑の相談コーナーへお気軽にお問い合わせください。

ひとつき ひとバラ



文： 小 林 薫
(いわみざわ公園バラ園)

第百三十回

番外編 スコッツローズ①

今回は番外編として、スコッツローズをご紹介します。1830 年以前には何百もの品種があったといわれますが、現在はあまり知られておらず、情報も少ない、謎の多い存在です。今回は主にイギリスの研究者ピーター・ボイド氏のレビュー論文「Scots roses and Related Cultivars of Rosa spinosissima -a Review (2015)」を参照し、まずどんなルーツを持つバラなのか、また道内で見られるガーデンをご紹介しますと思います。「スコッツローズ」は Rosa spinosissima と近い特徴を持つ、自然交雑種、その他栽培種を指します。ボイド氏は「真の」スコッツローズは、一般にスコットランドや北西ヨーロッパの他地域で野生化しているグループと特徴が近い種、また 1840 年以前に交配されたもの、としています。これは Rosa spinosissima の分布が非常に広大（西ヨーロッパから中国の北西、また北アフリカのアトラス山脈の一部にまで分布）で、その形態が環境により大きく変化するためです。氏によると、Rosa spinosissima は大きく 2 つの自然変異種グループに分けることができ、そのひとつが「スピノシッシマ変種」です。ヨーロッパとアジアに見られ、枝には細くまっすぐな棘と、剛毛状の針状突起が混在します。栽培品種は一般的に茂み状で、サッカード出し、高さ約 1m に成長し、約 2～5cm の小花と小葉をつけます。これらの特徴は、一般にイメージする「スコッツローズ」に似たものですね。一方、野生ではアジアに限定される「アルタイカ種」は茎には細い棘しかなく、2m を超える高さまで成長し、開いたアーチ状の低木があり、サッカード出しは少ししか出しません。花が大きく（直径 8cm を超えることもある）、葉も大きくなります。ボイド氏は 20 世紀に入ってからドイツのコルデス社が「アルタイカ種」を用いて育種した「Frühlings」シリーズや、デンマークの育種家が作出した複雑な交配種「Aïcha」はスコッツローズとは言えない、と述べています。どちらもいわみざわ公園に植わっていますので、是非実物をご覧ください。確かに背が高く大花で、いわゆる「スコッツローズ」のイメージとは異なります。「スコッツローズ」の花は白・クリーム・黄色・ピンク・赤・紫または藤色で、一重、半八重、または八重咲きなど非常に多様ですが、ヒップが美しい黒～濃い紫色なのも魅力のひとつです。また多くの場合、甘い香りがするのも特徴です。派手さはないバラですが、その野趣あふれる姿は他に代えられない美しさがあります。他のバラに先駆けて 5 月下旬から咲き始めますので、来春少し早めのバラ鑑賞にぜひお出かけください。道内で見られる場所は以下の通りです。

- ◎百合が原公園（札幌）ローズウォーク、温室前バラ花壇
- ◎イコロの森（苫小牧）受付前、ローズガーデン
- ◎十勝千年の森（清水町）ローズガーデン
- ◎いわみざわ公園バラ園（岩見沢市）レストハウス前、ウェルカムガーデン

他にも情報をお持ちの方がいらしたら、ぜひお知らせください！

次回は紛らわしい名前の話と、歴史などについてお伝えしたいと思います。

今月の市民園芸講座のご案内



- 10月4日(土) 13:00～15:00 バラ管理スタッフのローズツアー秋
参加費: 無料 定員: 40名 講師: バラ園スタッフ
- 10月5日(日) 13:00～15:00 早春を彩る球根を植えよう
材料費: 3,000円～ 定員: 10名 講師: 高橋 かつえ さん
- 10月12日(日) 13:00～15:00 男結びをマスターしよう
参加費: 無料 定員: 40名 講師: バラ園スタッフ
- 10月18日(土) 10:00～12:00 ばらゼミ⑧
参加費: 無料 定員: 40名 講師: 古舘 杏奈 さん

※お申し込みは講座開催月の1日9:00～電話で受付しております。

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話: 0126-25-6111 ホームページ: <https://iwamizawa-park.com/>

※資料ご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。

※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日3～4日位前までに
お申込みをお願いいたします。

※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。